

基本構想

—序論—

第 1 章

計画策定の趣旨

1 策定の趣旨

総合計画とは、市がめざすまちの将来像を掲げ、その実現のために実施する施策を体系的・計画的に進めていくための指針となるものです。

現在の本市の総合計画は、平成 17 年 1 月 1 日及び平成 18 年 1 月 1 日に 9 市町村の合併により誕生した唐津市が平成 18 年 3 月に策定したもので、「響創のまちづくり」を基本理念、「自然と歴史と文化が織りなす 心の散歩道 唐津」を新市の将来像に掲げ、その実現に取り組んできました。

この間、全国的な人口減少、少子化、高齢化が進行する中で、市民の価値観やニーズは多様化してきています。

また、税収の減少や社会保障費の増加等により、本市の財政状況はかなり厳しくなっていくことが予想されており、これまで以上に「選択と集中」の観点から政策の優先度を明らかにすることが求められています。

このような背景を踏まえ、第 2 次唐津市総合計画は、市民、地域との連携により本市の均衡ある継続的な発展と新たな時代に対応した魅力的な「唐津」を創造することを目的として策定するものです。

2 計画の構成と期間

第 2 次唐津市総合計画は、「基本構想」と「基本計画」で構成し、計画期間については、「基本構想」を平成 27 年度から平成 36 年度までの 10 年間、「基本計画」を前期 5 年、後期 5 年とします。

基本構想・・・市の現状と見通しをもとに、「まちづくりの基本理念」と「将来都市像」を明らかにし、「まちづくりの 6 つの基本目標」を掲げた中長期的な基本指針

基本計画・・・「基本構想」を具現化したもので、各分野において、基本目標を実現するための主要な施策を体系的に整理した計画

年度	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36
基本構想【10 年】					基本構想					
基本計画【5 年】		前期基本計画					後期基本計画			

※ 基本構想、基本計画の計画期間



1 地理

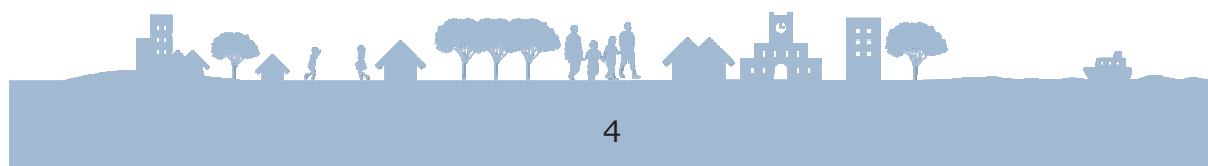
佐賀県北西部に位置する本市の市域は、東西約 36 km、南北約 30 km に及び、総面積は約 487.54 km² で、佐賀県全体の約 20% を占めています。

市域の東部は福岡県糸島市、佐賀市、南部は多久市、武雄市、伊万里市、西部は玄海町、伊万里湾を隔てて長崎県松浦市に境界を接し、北部は玄界灘に面しています。また、東部は脊振山系が唐津湾に向かってなだらかに傾斜し、中部は松浦川の流域に沿って平坦部が広がり、西部には丘陵地帯の上場台地があります。

その地先をなす唐津湾は帯状の松原と砂浜が両翼に広がり、湾のほぼ中央に高島があります。近郊の海には、神集島、小川島、加唐島、松島、馬渡島、向島の離島群が東松浦半島を取り囲むように位置しています。

道路網は、福岡県、伊万里市方面に通じる国道 202 号が市を東西に横断しており、佐賀市方面に通じる国道 203 号が南北に縦断しています。さらには、国道 323 号は浜玉・七山地区を通り佐賀市へ、国道 204 号は東松浦半島を巡回し伊万里市へと通じています。また、西九州自動車道、佐賀唐津道路の整備が進められており、市中心部から福岡都市圏までは車で約 60 分、佐賀市までは約 70 分程度の所要時間となっています。

鉄道網は、ＪＲ唐津駅を基点として、ＪＲ筑肥線が海岸沿いに福岡市へと、ＪＲ唐津線が佐賀市へと通じており、ＪＲ山本駅を基点として、ＪＲ筑肥線が伊万里市へと通じています。



2 自然

本市の中部は、緑豊かな田園地帯となっています。標高 284m の鏡山の眼下には松浦川が流れ、穏やかな唐津湾とそれに続く玄界灘が広がっています。また、玄界灘の荒波によって創り出された七ツ釜は国の天然記念物に、海岸線に弓状に広がる虹の松原は国の特別名勝に指定されています。

東部には、シロウオで有名な玉島川が流れ、その上流は背振・天山山系の森林地帯となっており、檜原湿原や観音の滝など山村特有の自然景観を形成しています。

南部には、県立自然公園に指定された背振・天山山系の森林地帯が広がっており、アユの住む清流の厳木川や見帰りの滝などの自然が存在しています。

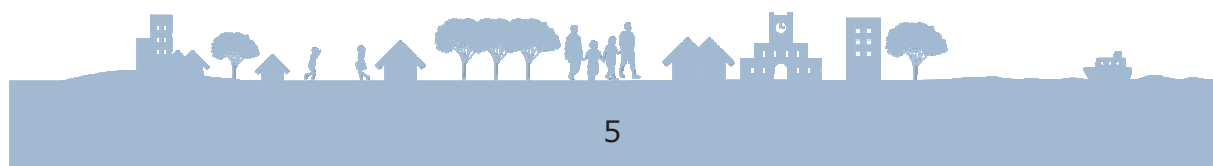
北西部は、上場台地という丘陵地帯を形成しており、稲作や畑作、畜産が盛んです。玄界灘に面する変化に富んだリアス式海岸線一帯は、風光明媚ないろは島や波戸岬などがあり、玄海国定公園に指定されています。

3 気候

本市の気候は、年間を通して風が強いものの、比較的温暖で、冬には曇りの日が多く、日照時間が少ないことから日本海側気候に属しています。

その中でも、対馬暖流や海陸風の影響を受けた沿岸域の海洋性気候区（中央地域、北部地域、西部地域）では、平均気温は 15～17℃で、ほとんど霜が降らず、年降水量は全国平均並みの 1,500～1,800 mm です。また、夏と冬の気温差や、1 日の中で朝と昼間の気温差が比較的小さいという特徴があります。

天山や八幡岳の山麓の山岳性気候区（東部地域、南部地域）では、平均気温は 14℃ 以下（1 月の気温が 4℃ 以下）で、11 月から 4 月に霜が降り、冬には雪が積もる寒さが厳しい地域となっており、年間降水量は 2,000 mm を超えます。



4 歴史と文化

本市は、古来から大陸との交流が盛んに行われ、『魏志倭人伝』には「末盧国」として記述された地域であり、朝鮮半島や中国大陆からの様々な文化が取り入れられ、全国へと伝わったと考えられます。それを示すかのように、市内には数多くの遺跡があり、歴史を知る上での重要な文化財が多く出土しており、考古学的に重要な地域となっています。

中世に活躍していた豪族たちの史跡として、松浦党の岸岳城跡、獅子城跡、豊臣秀吉の朝鮮出兵の前線基地となった特別史跡名護屋城跡並びに陣跡があり、江戸時代になって築城された唐津城の城下町も市中心部に残っています。

近代では、唐津出身の建築家辰野金吾監修の旧唐津銀行本店、石炭産業の発展に尽力した高取伊好による旧高取家住宅、捕鯨の歴史を物語る鯨組主旧中尾家住宅などの建造物が現存しています。

伝統工芸品唐津焼は、肥前陶磁器を代表する伝統工芸として、全国に多くの愛好者を持っています。現在、唐津には多くの窯元があり、その伝統を守り受け継ぐとともに、新しい感覚を取り入れた魅力ある作品を作り続けています。

また、重要無形民俗文化財として、国指定の「唐津くんちの曳山行事」と「呼子大綱引き」をはじめ、県指定の「広瀬浮立」、市指定の「浜崎祇園祭」、「天川浮立」、「星領浮立」、「羽熊（大名行列）」、「小川島鯨唄」、「小友祇園」、「大白木亥の子さま」、「鬼じゃ鬼じゃ行事」など、各地域に伝統的な祭りが守り引き継がれており、地域の連帯感を醸成するとともに、世代間の交流を深める上での重要な役割を担っています。

